

ネパールのシニアボランティア 2年間（7）

—シニアボランティアグループ—

吉田勝（橋本市）

ネパール赴任シニアボランティアの人数と職種

2003年から2005年間のネパール赴任JICAシニアボランティア（SV）は、総勢ほぼ20人くらいだった。年に2回、4月と10月に2-3人から7-8人が派遣される。任期は例外を除いて2年間で、1回の派遣／帰国交代の平均人数は5人前後である。出入りを含めると私達の赴任中に半年以上ネパールで一緒に赴任したSVは全部で35人程度ということになる。シニアボランティア（SV）の職種（JICAでは“指導科目”とっている）は、前に述べた（本報告No.1）ように、多種多様であり、500科目近くが挙げられている。

そんなわけで、私のネパール赴任中に半年以上一緒だったSVの職種も様々であった。残念ながら手元に記録がなく、また記憶も定かでないが、思いつくままに書き出してみよう。

ネパールSV2003年～2005年の職種・指導科目（一部）

障害児教育指導、障害者リハビリ指導、看護師指導、病院経営指導、印刷技術指導、観光産業育成指導、IT技術・産業指導、交通警察指導、体育館運営指導、柔道指導、狂犬病予防指導、体育教育指導、農産物流通指導、食品管理、博物館員、大学教員。

SVはほぼ全員がお互いに名前、顔と職種を認識し、個人的なお付き合いもいろいろな程度にあった。仕事のうえでは毎月一回、半日程度の報告と情報交換会のほか、SV-専門家集会が年に数回あり、さらに日本人会のいろいろな会合でもSVの何人かとは必ず会えたものだった。

シニアボランティアの定例報告会

SV報告会（図1）は、毎回SVが数人ずつ

交代で各自の仕事や関連のできごとなどを30分程度報告し、それに関して質疑や意見交換をする。SVの報告の前には必ずJICA事務所からの報告や連絡があった。SVの報告は、他のSVの仕事への理解が深まるのは勿論だが、同時に、ネパールの国民の仕事や暮らしや考え方、さらにボランティア活動の実態や問題点なども垣間見え、大きな収穫がある会だった。しかし毎月1回顔を出さねばならないことや、JICA事務所の連絡が、ときにSVの自由な動きを頭ごなしに縛り付けるようなものであることもあり、SVの中では会の持ち方に批判的な意見があったことも間違いはない。



図1 SV報告会

シニアボランティア・専門家懇親会

年に1-2回行なわれるSV-専門家懇親会は、SVや専門家らが自主的に世話をする会であった。会の前半午前中には、新任や離任者の挨拶と、離任者の総括的な仕事や生活の話題提供があった。その後会食があり、お酒もでて、なごやかな雰囲気の中で全く自由な歓談の時間となった。なかなかよい雰囲気でも、前半はともかく、とりわけ公判の懇親会は心待ちにする人達も少なくなかった。

この会にはJICA関係者は参加自由となっていたと思われるが、所長、次長、調整員以外の参加は殆どなかった。SVは全員の7割ほど、専門家はそれよりかなり少ない出席だったようだ（図2、3、4）。



図2 SV・専門家会 サミットホテルで、後ろは見事に咲いたジャカランタの木



図3 挨拶する帰任SVら



図4 くつろぐ夫人たち

シニアボランティアの忘年会

年一回のシニアボランティア忘年会は、SVの皆が心待ちにし、特別な用がない限り殆ど全員が参加した。私の赴任中は2回のチャンスがあり、2度ともカトマンズ近郊の名所「ナガルコット」だった。ナガルコットはなんと

も素晴らしいヒマラヤの眺望で知られている。カトマンズ市内から車で2時間ほど、田舎道を通り抜けて山道を1000mほども登ると、標高2400mの丘の上に開けたナガルコットの集落に着く。集落といっても、道路側に並ぶ小さな土産物屋やレストランを覗けば、あとは山の中

に点々と建つホテルだけ、全部で数十軒程度の集落である。

私が赴任して第一回目の忘年会は、ニバニワロッジというホテルだった（図5，6，7）。カトマンズの日本食レストラン「バンバン」が経営するホテルで、設備や従業員は日本人客にちゃんと対応できるようになっているということで、カトマンズ在住日本人の多くが常用している宿である。JICA 特別価格ということで1人1泊全食事付き50ドルである。まわりに比べるとかなり高価で、参加SVの中には驚く人もいたが、まずは快適な宿であった。夕食のあと、ロビーの暖炉を囲んで遅くまで飲み語る雰囲気もよかった。



図5 ニバニワロッジの暖炉を囲んで話はずむ



図6 朝のロッジの庭散歩するSVら

翌日はナガルコットから西に10キロほど離れた名所チャングナラヤンまでの軽いハイキングで（図8，9）、雲間にかすかにヒマラヤを見つつ三々五々のんびりと下って行き、途中

の野原で昼食の弁当をとり、チャングナラヤンの寺院や街を見学のあと、待機していたバスに乗り込んでカトマンズに帰着した。



図7 朝霧の中、ロッジのテラスで



図8 いろいろな動物に出会ったトレッキング道



図9 チャングナラヤンの街を歩くSVたち

2度目の忘年会は私がお世話をした。ナガルコットの高級ホテル4軒（ニバニワロッジ、サミットホテル、クラブヒマラヤ、ナガルコットリゾート）に大バーゲンの見積もりをお願いした。結局ニバニワロッジ以外は地元価格ということで1泊20～25ドルという条件を提案してもらい、その中で以前に2回国際シンポジウムで利用したナガルコットリゾートに決まった。食事、会議、宴会、個室の風呂など、うるさく注文をつけた甲斐があり、全体として快適だった（図10）。



図10 ナガルコットリゾートのキャンプファイアで盛り上がる



図11 ヒマラヤをバックに参加者たち



図12 ご夫人と参加したSVも多かった



図13 ハイキングの途中で ハイ、スナップ!

翌日は快晴で、ヒマラヤの眺望が最高だった(図 11, 12, 13, 14)。私はナガルコット4度目だったが、これまでの3回のナガルコット泊まりのいずれの場合もヒマラヤがちゃんと見えたことはなかったのである。

翌日は、前回と趣向を変えて、ナガルコットから北西3キロのサクーに向かう尾根下りト

レッキングだった。途切れることなく続くヒマラヤの展望を楽しみつつ、サクーに着いたのは3時ころ、皆大分へばったようだった。このコースは直線距離は短いが急な山腹を巻いて下りるコースは長く、また時には急斜面もあり、老壮年のシニアボランティアには、全体として少しきつかったようであった。



図 14 最高のヒマラヤの眺望に恵まれたトレッキングだった

シニアボランティア職場訪問

ネパール赴任後1年ほど経ったあるとき、シニアボランティアお互いの職場訪問会をしようということになった。これは多分、あるときのシニアボランティア定例報告会でのJICA事務所長の示唆がきっかけだったのかもしれない。同僚SVの活動や赴任先の様子を見ることは、お互いの仕事の理解だけでなく、ネパールのいろいろな職場や、職場で働く人達の状況や民情を知るうえでも役にたつ。また、自分たちの活動にも還元されるだろうというわけで、賛同者が多かった。

JICA事務所では、この見学会をSV活動の一部として認め、バスをチャーターしてくれた。但し随伴家族は仕事とは認められないので、別の車でついて行くようにと、いかにもお役所的な判断を示した。

なにはともあれ、そういうことで、SVの中で自分の職場を見て頂いて結構ですという人たち何人かが案内する見学会をしようということになった。やってみると参加希望の随伴



図 15 トリチャンドラキャンパス地質学教室で
教員による職場説明

家族はごく少なかったため、結局チャーターバスと一緒に乗ることになった。

介護施設、病院、大学、青物市場など幾つかの職場訪問(図15)を何回か実施したが、その後この企画は自然に立ち消えになったようである。個人的にやった方がよいのか、SVの案内あるいは見学希望が少なかったためか、はたまたJICA事務所がバスチャーターをしづつたためだったか私にはあまり明確な記憶がない。
(PASPORT誌に投稿 2007年7月17日)